

大腸ポリープ

大腸ポリープとは？

大腸の粘膜の一部がイボ状に盛り上がった隆起性病変をポリープと呼びます。ポリープには、癌化することのない非腫瘍性ポリープと、放っておくと癌化する腫瘍性ポリープ（腺腫）に分類されます。大腸のポリープは80%以上が治療の必要がある腫瘍性ポリープであります。大きくなるにしたがって、大腸がんの可能性が高くなります。大腸ポリープは特に直腸やS状結腸に発生する場合がありますと言われています。

原因と症状は？

大腸ポリープの原因は食べ物が大きく影響していると言われています。日本食から欧米食化し動物性脂肪や蛋白質の過剰摂取が原因でないかと言われています。予防するためにも食生活に気を付けましょう。脂肪の多いものは避け、牛肉・豚肉・鶏肉の摂取を減らし、魚を多くとるようにしましょう。

小さなポリープは無症状のものがほとんどです。ですが大きくなると下血する可能性があります。健康診断で便潜血テストをして、結果が陽性で初めて血便に気づく場合があります。便潜血の検査では大腸ポリープでは10～30%、早期の大腸がんでは50%、進行がんでは80～90%の確率で見つかります。ですが、便潜血の検査では早期がんの半分は見逃されてしまいます。大腸内視鏡検査を受けることで大腸ポリープや大腸がんを見つけることができるため年に1回大腸内視鏡検査をお勧めしております。

大腸がん和大腸ポリープの関係

大腸がんは腫瘍性の大腸ポリープが大きくなって癌化すると言われています。大腸ポリープは大きくなると、がんである可能性が高くなります。

大腸がんは戦後から1990年代までに急速に増加してきたがんの1つです。2006年では男性は約6万人、女性は約5万人であり、増加傾向にあります。大腸がんによる罹患率は近年上昇しており男性では胃癌に次いで第2位、女性では乳がんに次いで第2位となっています。死亡率は2010年で男性では、肺癌・胃癌に次3位、女性では1位となっています。大腸がんは50歳過ぎから増加しはじめ、高齢になればなるほど多くなります。

大腸ポリープの治療

大腸ポリープと診断された場合、腫瘍性か非腫瘍性かは表面を観察し、腫瘍性ポリープであれば切除します。ポリープを切除すると約1%の確率で出血することがあります。そのため、外来でポリープを切除することも可能ですが、入院が必要な医療施設もあるため、検査前に医師に確認が必要です。

また、ポリープを切除した場合は、数日間の食事制限や運動制限および入浴制限もあります。さらに、狭心症や脳梗塞で抗凝固薬および抗血栓薬を服薬されている場合は、治療前に一定期間の休薬も必要のため主治医に休薬が可能か相談して下さい。

**大腸ポリープを発見するためにも50歳を迎えた方は
1年に1回、大腸カメラを受けましょう！！**